未来へつながる水道

若松五中三年　佐藤　羽音

水道は日本で、どこにいても存在することが当たり前であるが、改めて水道について考えてみることにした。

毎日、安全安心な水道水があることで生活は成り立っている。しかし、国の違いでその当たり前が違ってくることは簡単に想像できる。日本は安心で美味しい水があり、恵まれた国であることは幼いころから感じてきたこ

とだ。

私は中学校でのバスケットボール部の活動や駅伝部の朝練で毎日、家から水筒を持参し水分補給をしている。真夏には、二ℓの水筒でもあっという間に空になる。思いっきり走った後に飲む水は、何よりも美味しく、一気に満たされる。水筒の水が足りなくなった時は、学校の給水や水道の水を飲むことができるので安心だ。カラカラに乾いたのどを潤す時、水のありがたさを心から感じる瞬間だ。

Nakabayashi　中性紙使用20×20

そんな生きるためになくてはならない水を節水することは大切であるが、私たちがすぐにできることは何だろうか。

私の家では、二年前にシャワーヘッドを節水用のものに付え替えた。その説明書きを読むと、節約でき、環境、地球に優しく、細かい粒子により汚れが落ちやすいとあった。消費者として冷静な判断を求められる今、もし本当だとしたら一石二鳥どころかそれ以上だ。実際、水道料金が少し下がり、商品を購入し

た金額を考えても直ぐに元を取れたようだ。

私の家族は、兄、姉、私と両親の五人家族だ。毎日お風呂を沸かすほか、全員がシャワーを使うと相当な量の水を毎日消費しているだろう。母に、「シャワーは流す時だけにして、洗っている時は止めなさい。」と小さいころから口うるさく注意されていた。今考えると大切な資源を守ることに繋がる、とても大事なことだと思う。また最近は、人口減少に伴う水需要の減少の課題もありとても難しい。

Nakabayashi 中性紙使用20×20

私は、シャワーヘッドを替えたとき節水で使用する水の量が少なくなるならシャワーの使い心地も悪くなるのではないかと思った。だが実際は、水量調整も簡単に出来るため、元のものよりも使いやすい。企業が開発する商品を活用することで、企業の利益だけでなく消費者や地球にも優しくお互いにプラスになることもある。

テクノロジーの利用は、ぜい沢に慣れた私たちにも無理なく続けられ、求められている

だろう。不便や我慢をしいられる方法は、どんなに環境に良く、推進されても、続かないことなのかも知れない。限りある資源を守る意識を持つことと同時に、テクノロジーによるエコを進めていくことが必要だと思う。

しかし、日本で暮らしていても、突然、水道が使えず水に困り、困難な状況になることがある。今年、能登半島地震が発生し、甚大な被害をもたらした。ニュースに映る現地の映像には言葉には表せられないほどの悲しみ

Nakabayashi 中性紙使用20×20

があった。被災した方へのインタビューで今一番必要なものは何か尋ねていた。ある男性は、「とにかく水がほしい。飲み水だけでなく生活するのに今一番必要だ。」と話していた。日本に暮らしていても、そのようなことが起こってしまう事実に衝撃を受けた。

災害への備蓄が大切とはよく聞くが、各自が備える量も限界があり、それもほんの数日分しか無理だろう。飲料水や支援物資を届けたくても、道路も分断されてすぐには現地に

届けられない。給水所には長蛇の列ができていた。普段の水のありがたさを実感するにはつらすぎる天災であると思った。

水道管の復旧にも時間が必要だ。だが、そんな中でも、どんどん復旧が進み、作業をする方の力や熱い想いに心を打たれた。

現在、水道管の老朽化が問題となっている。水道管は四十年位の耐用年数で、従来の鉄より耐震性があり、しなやかでさびや衝撃に強い水道管への工事が進められているそうだ。

Nakabayashi 中性紙使用20×20

ある日のニュースで、「水道クライシス」に対する会津若松市の取り組みを特集していた。水道クライシスとは、水道管の老朽化など生活を支える水道について深刻な課題が発生している状況をいうそうだ。

そのために、これまでの自治体ごとではなく流域単位でAIを活用し管路劣化度調査をし、水道技術、維持管理を底上げしていくこと。災害時にもサポートし合えるよう、技術連携を通じて、地域で強い水道をつくることが重要とのことであった。

昔のものから現代のものへと、より良いものへ日進月歩、技術の開発力は日本の素晴らしさを感じた。土の中の災害対策でもある。

私たちが生きていく日本、そして世界の資源が守られていくためには、一人ひとりが常に水に感謝し、節水しようと心掛けることが大切である。その上で、日々進歩する技術を活かし、資源を守り抜き、次世代へと繋いでいくことが未来への希望につながる道だろう。